

日本で育った!!



# かんぽう と わたし

vol.16 漢方のぎもん～その2～

北里大学東洋医学総合研究所



きもん1 漢方薬は長く飲まないといけないの？

## 即効性のある漢方薬もあります

頭痛や腹痛、胃腸症状(胃もたれ・胸やけ)などに用いられる漢方薬の中には、数回の服用で効果が得られることもあり、漢方薬にも即効性が期待されています。もちろん長い間患っていた慢性的な疾患・症状、また、体質改善を目的に服用される場合には、効果が現れるまでに長期に渡り服用が必要になることもあります。しかし、あなたの身体の状態に合っていれば、漢方薬を服用して1ヶ月くらいで何かしらの体調の変化が現れるはずですよ。



きもん2

風邪やインフルエンザにも漢方薬は効くの？

## 漢方薬は風邪やインフルエンザにも有用です。

漢方薬は風邪やインフルエンザなど、流行性の疾患、感染症に対しても有用です。

漢方薬は、感染症の原因となるウイルスや細菌と直接戦うのではなく、誰もが本来もっている「自然治癒力」をうまく引き出し、免疫力を高めることで感染症と戦います。そのため、原因となるウイルスや細菌がわからなくても、その患者さんの病期(病気の進行度)や病態(不調が現れている部位や症状など)を把握することで、対処することができます。



きもん3 病院で処方される漢方薬と、ドラッグストアで売っている漢方薬は何が違うの？

## 主に成分量が異なります。

病院やクリニックから処方される漢方薬を医療用漢方製剤といいます。それに対して、薬店やドラッグストアで購入できる漢方薬を一般用漢方製剤といいます。自己判断で服用する一般用漢方製剤は、安全性を考慮して、医療用より成分量が少なく設定されています。(なかには「満量処方」といって、医療用と同じ成分量のものもあります。) また、取り扱うことができる漢方薬も異なります。



きもん4

「どくだみ」や「げんのしょうこ」「ハトムギ」などの民間薬も漢方薬？

## 同じ「薬」でも、漢方理論に基づいて使う漢方薬とは異なります。

便秘や吹き出物に使われる「どくだみ」、下痢に「げんのしょうこ」、イボ取りに「ハトムギ」などの民間薬は、生薬を用いる点では漢方薬と似ていますが、薬の成り立ちや構成・作り方・使い方に漢方薬とは大きな違いがあります。民間薬は、昔の人々の生活の知恵や経験的に受け継がれたものであり、単一の薬用植物や生薬を煎じてお茶のように服用するものが多く、ある特定の症状に対して用いられます。一方、漢方薬も先人の経験により受け継がれたものですが、古くから伝わる古典に、煎じ方や用法用量、使い方なども詳細に記載されており、医学として体系化されています。また、複数の生薬を一定の配合比で組み合わせる点でも民間薬とは異なります。



COLUMN

## おいしい漢方薬がある!?

「良薬口に苦し」というように、漢方薬も苦いもの、飲みにくいものと思われる方も多いと思います。もちろん、苦く感じる漢方薬もありますが、実はそれだけではありません。

「甘草」という生薬を含む漢方薬は、文字通り甘い味がします。甘草にはショ糖のおよそ150倍の甘味を有するといわれているグリチルリチン酸が多く含まれているからです。食品添加物の甘味料として、醤油や味噌、漬物など多くの食品にも使われています。

また、漢方薬は、身体の状態に合っていれば、おいしく感じると言われています。そして、その人の身体の状態が変わると、感じる味も変わるとも言われています。身体が求めている味があるのかもしれない。

